

第13期東京都生涯学習審議会 第6回全体会

次 第

令和8年2月12日（木曜日）午後4時から午後6時まで
（会場：都庁第一本庁舎25階 112会議室）

1 開会

2 議事

これからの東京の地域教育の在り方について

- (1) 藤村委員からの報告
- (2) 田中委員からの報告

3 今後の予定

4 閉会

【配布資料】

資料 第13期東京都生涯学習審議会第6回全体会 審議資料

第13期東京都生涯学習審議会委員

(任期：令和7年1月23日から令和9年1月22日まで)

氏名	所属
アオヤマ テツベイ 青山 鉄兵	文教大学人間科学部准教授
アサクラ ミユキ 朝倉 美由紀	明星大学教育学部特任教授
イマ イ ヌウスケ 今井 悠介	公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン代表理事
クラモチ イブエ 倉持 伸江	東京学芸大学教育学部准教授
ササ イ ヒロミ 笹井 宏益	玉川大学学術研究所高等教育開発センター客員教授
シノ タ ヌトミ 塩田 琴美	株式会社CMU Holdings CEO/一般社団法人こみゅステージ代表理事
シシダ シタマ 志々田 まなみ	国立教育政策研究所生涯学習政策研究部総括研究官
タ ナカ マサヒロ 田中 真宏	特定非営利活動法人ピープルデザイン研究所代表理事
フジハラ タクミ 藤村 琢己	一般社団法人Fora代表理事

第13期東京都生涯学習審議会
第6回全体会 審議資料

令和8年2月12日

1 開会

2 議事

これからの東京の地域教育の在り方について
各委員からの報告

(1) 藤村 琢己 委員

(2) 田中 真宏 委員

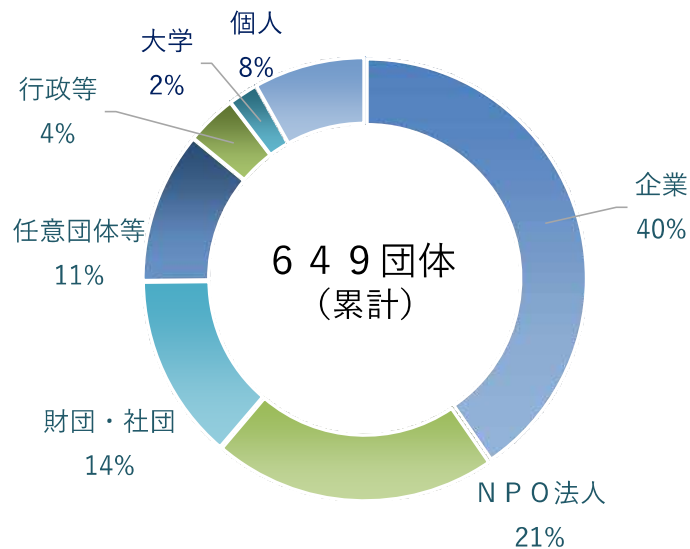
3 今後の予定

4 閉会

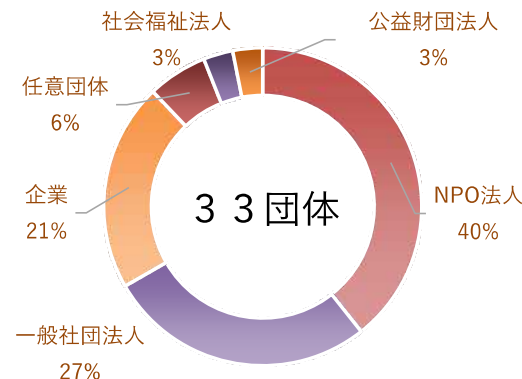
【補足資料】2つの地域教育プラットフォームの団体構成

令和8年2月1日現在

◆ 地域教育推進ネットワーク東京都協議会



◆ インクルーシブな学び東京コンソーシアム



※地域教育推進ネットワーク東京都協議会とインクルーシブな学び東京コンソーシアムに重複する団体数は3団体

◆ 東京都地域教育推進ネットワーク東京都協議会のなかで生涯学習課が実施する事業に協力する団体数（令和7年度）

対象	実施事業名	団体数	提供プログラム数
小中学校	『地域学校協働活動推進フォーラム/コミュニティ・スクール推進フォーラム資料集』教育プログラム掲載	55	55
	未来きらめきプロジェクト(不登校児・生徒に向けた体験活動)	6	32
都立高校	都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム	68	211
	総合学科におけるNPOと連携した社会人基礎力向上事業	3	—
合計		132	298

※合計132団体のうち20団体は複数事業を実施しているため重複計上（実団体数は112団体）

【補足資料】2つの地域教育プラットフォームの実績

地域教育推進ネットワーク東京都協議会

(平成17年8月設立)

目的

企業・大学・NPO等の社会資源が有する専門的教育力を、学校教育をはじめとした地域における教育活動に効果的に導入し、都内各地で展開される学校内外を通じた教育活動を活性化する

主要実績（令和7年度）

- 全普通科高等学校等において、**社会的・職業的自立を支援するプログラム**の実施協力（152校、68団体、1,055プログラム実施予定）
- 都立総合学科高校**において、社会人基礎力を養成するプログラムの実施協力（4校、3団体）
- 不登校児童・生徒を対象とした体験活動**プログラムの提供（6団体）
- プログラムアドバイザー**による小・中・高等学校等へのプログラム活用についての助言や授業実施支援等
- 地域学校協働活動推進をテーマとした**フォーラム**の開催（1回）

インクルーシブな学び東京コンソーシアム

(令和6年2月設立)

目的

インクルーシブな学びに関する事業を実施している企業やNPO等の交流の場を提供し、障害のある人々の学びの支援や、障害の有無に関係なく共に学べる環境づくりに向けた取組を展開する

主要実績（令和7年度）

- 全都立学校を対象に**共生社会への理解促進等に関する教育プログラム**を提供（69校、135プログラム実施予定。都立高校生及び都立特別支援学校生およそ10,000名（のべ人数）受講予定）
- 都立特別支援学校卒業生を主な対象とした**公開講座**の実施（8講座）
- ボランティアや特支PTAを対象に**手話や学校卒業後の生活や学び等の研修**の実施（4講座）
- 学校卒業後の障害者の学びの場づくり**への実施協力

今後の議論について

第13期生涯審議論の方向性

ポイント①

新たな地域教育プラットフォームの構築

第5回の主な御意見

新たな地域教育プラットフォームに必要な機能

情報発信や交流の場

- ・協業や共創を生むネットワーキングと学び合いの機能
- ・団体同士や学校の先生と団体が実践事例等を交流する場
- ・情報検索、アクセスしやすい仕組みが必要

プログラムの評価

- ・多様な主体のプログラムの質を評価する機能
- ・プログラムの開発評価に多様な意見を反映する機会

ニーズの把握とマッチング

- ・学校、地域活動、社会教育の施設、団体のフィールドのニーズを把握し効果的にマッチングする機能

- ・共助的で相互的な学びを応援し共に創り上げる共創の発想で地域教育をアップデートする必要

ポイント②

区市町村等との連携強化

多様な主体と地域が連携する仕組み

モデル事例の展開

- ・都が先行モデル事業を仕掛けて成果をつなぐ必要
- ・区市町村との連携にはモデル事例をつくることが大事

コーディネート機能

- ・学校や団体をマッチングするためにはコーディネーターの存在が必要
- ・コーディネート機能には社会教育の専門的な人材が必要
- ・行政の専門職としての社会教育主事の新たなスタイル
- ・事務局を都で担うのか団体等に委託等するか検討が必要

共創を生み出すプラットフォーム

新たな地域教育プラットフォームには**共創（学び合う環境）を生み出す機能や仕組み**が必要であるとの認識のもと、**具体化に向けた構想を検討**するため委員から報告をいただく

第6回

地域教育推進ネットワーク東京都協議会とインクルーシブな学び東京コンソーシアムそれぞれの関係団体から見た現状、成果、課題、期待について（機能面を中心に検討）

第7回

【予定】多様な主体と地域が連携するための新たな地域教育プラットフォームの基盤となるコーディネート機能や都の社会教育主事の在り方について（仕組み面を中心に検討）

藤村委員からの報告

これからの東京の地域教育の在り方について
—団体から見た地域教育推進ネットワーク東京都協議会の現状、
成果、課題と期待—

第13期 東京都生涯学習審議会
第6回 委員報告(令和8年2月12日)

これからの東京の地域教育の在り方について
一団体から見た地域教育推進ネットワーク東京都協議会の現状、成果、課題と期待一

藤村 琢己(一般社団法人Fora 代表理事)

委員報告の構成

- 1、自己紹介および団体紹介
- 2、現状（団体側目線 東京都と一般社団法人Fordとの関わり 2016年～2026年）
- 3、成果（団体側目線）
- 4、課題（委員側目線）
- 5、期待（委員側目線）

自己紹介

- ・2016年4月から、一般社団法人Foraを設立。学校教育の支援（人生の土台となる教育の実現を目指す）に従事。
- ・本日の委員報告では、学校支援事業者、団体経営者、審議会委員の3つの目線からご報告いたします

学校支援事業者の目線

×

団体経営者の目線

×

生涯学習審議会委員の目線

いかに学校教育活動を支援できるか

- ・探究学習やキャリア教育に従事
- ・学校外から支援を実施
- ・教材提供、出張授業の実施
- ・カリキュラム支援、教員研修の実施
- ・常駐型の支援も実施

- ・ネットワーク協議会での事業も実施
(2023年～)

いかに事業や組織を発展させるか

- ・法人経営に10年間従事
- ・学校伴走事業の立ち上げ
- ・協働事業の立ち上げ
- ・経済産業省の実証等にも参画

- ・ネットワーク協議会の加盟団体
(2016年～)

これからの地域教育のあり方とは

- ・昨年からの就任
- ・ネットワーク協議会の成果、課題、展望
- ・インクルーシブプラットフォームの展開
- ・

- ・第13期 生涯学習審議会委員
(2025年～)

概要について



設立：2016年4月設立（10年目）
事業：学校伴走事業、協働事業



2024年度 導入実績

導入先学校数 **73校**
導入生徒数 **18,000名**ほど

探究学習ワークブックvol.1 **30校**
探究学習ワークブックvol.2 **25校**
進路探索ガイドブック **8校**
キャリアゼミ **24校**
探究カリキュラム伴走サポート **30校**

連携企業/団体数 **14団体**
連携自治体 **2自治体**

主な提供サービス



学校伴走サポート

総合的な探究の時間を総合的にサポート
教育目標、カリキュラム、教育評価までを一貫支援



学習教材の提供

探究学習や進路選択のための学習教材を提供
ワークショップ等についても提供を実施



講演/キャリアゼミ

講演やワークショップ等の授業を実施。
高校への出張授業に加え、行政の枠組みでも提供



協働事業

企業/団体/大学などとの連携協働を実施
教育業界のリソース開拓を目指してプロジェクト実施

委員報告の構成

- 1、自己紹介および団体紹介
- 2、現状（団体側目線 東京都と一般社団法人Fordとの関わり 2016年～2026年）
- 3、成果（団体側目線）
- 4、課題（委員側目線）
- 5、期待（委員側目線）

団体と行政の関わりの3段階と6ステップ(試案)

- ・団体と行政との関わりには、大きく3つのフェーズ、細かくは6つのステップがあるのではないか。
- ・「いかに接点を確保するか」、「いかに事業を育てるか」、「いかに共創を生み出すか」を整理して検討することが重要ではないか。

フェーズ	接点フェーズ	事業フェーズ	共創フェーズ
状態	<ul style="list-style-type: none"> ・行政と団体の接点がない状態 ・行政と団体の接点はあるが、事業上の関わりがない状態 ・次フェーズへの移行は、事業上の接点 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政と団体が事業で関わっている状態 ・事業規模によって、団体との関わりの深さも異なる ・次フェーズへの移行は、団体間の連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を行う団体連携が発生している状態 ・困難な課題や意義深い課題に対して新たな価値の創出を行なっている状態 ・成功状態は、より困難な課題等の解決
方向性	行政との接点の創出、拡大、深化	事業成果の達成、組織能力の向上	コレクティブインパクトの達成 (団体間を超えた共創の実現)
打ち手 (ステップ)	1、接点の創出 2、接点の確保	3、短期プログラム支援 4、中長期プログラム支援	5、ネットワーキング支援 6、共創・新たな実践の創出支援

接点フェーズ(2016年~2022年)

接点

事業

共創

- ・2016年に出張授業を基幹事業として設立。2016年には、ネットワーク協議会に加盟。コーディネーターフォーラムにも見学。
- ・ただし、事業収益の兼ね合いから、東京都の短期プログラムへの参画は難しい側面もあった。

1、初回接点 2016年

4月:

- ・出張授業(キャリアゼミ)を行う団体として設立。
- ・企業のスポンサーモデルで実施。
- ・設立時には、ネットワーク協議会の存在は知らなかった。

11月

- ・生涯学習課の担当の方と都庁で面談。
- ・すでにネットワーク協議会に加盟していただけた団体の紹介。
- ・その後、ネットワーク協議会に加盟。

12月

- ・都庁で開催された第10回のコーディネーターフォーラムを見学。
- ・様々な団体が出展。ただし、団体リソース不足で協働は実現せず。

主なサービス紹介

出張授業(2コマの提供)

収益モデル

企業スポンサーモデル

3、短期プログラム支援 2017年

- ・都の事業で都立高校の出張授業に一度関わった。
- ・紹介いただいた団体との協働で実施。
- ・ただ、採算との兼ね合いから、当時は1件のみの実施。

※難しかった理由

- ・出張授業自体を収益の柱としていたこと
- ・出張授業も1名ではなく、10名以上が関わる授業だったこと
- ・都や学校からのフィードバックがあまり得られなかったこと

主なサービス

出張授業(2コマの提供)

収益モデル

企業スポンサーモデル

接点フェーズ(2016年～2022年)

接点

事業

共創

- ・2018年から5年間は、東京都との接点はなかった。ただし、団体としては事業基盤を形成・転換する重要な成長期だった。
- ・新たなサービス展開、収益モデルの大幅な転換、経済産業省の実証事業の参画や補助金等に採択され、事業転換を行なった。

2018年～2019年

- ・都立学校で、探究プログラムの支援
年間のティーチングアシスタントで継続的な授業実施
(文科省の指定校、都の指定校、学校予算で実施)
- ・経済産業省「未来の教室」実証事業に参画
地域探究プログラムの実証に従事
- ・探究学習の教材作成なども実施

主なサービス 出張授業→探究学習の年間支援(TAサポート)

収益モデル 学校モデル、企業との協働モデル

2020年～2022年

- ・都立学校からカリキュラム支援の相談。
中学校/高校の6年間を見据えたカリキュラム策定を開始。
(民間財団を活用し、学校予算で実施)
- ・経済産業省「EdTech導入補助金2021」に採択。
- ・大企業の教育CSRで連携協働を開始。
- ・独自開発を行い、探究学習教材(3年間で3冊)をリリース。

※コロナ禍の対応(2020年～2024年)

- ・出張授業の大幅な縮小を経験
- ・新たなモデルへの転換が不可欠なタイミングだった。

主なサービス TAサポート → 教材提供、カリキュラム支援

収益モデル 学校モデル、企業との協働モデル

事業フェーズ(2023年~2024年)

接点

事業

共創

- ・2023年に、再び、東京都の生涯学習課との接点。これまでの学校支援の実績をもとに、社会人基礎力向上事業に参画。
- ・2024年には、自立支援プログラムにも参画。広く届けたい段階だったため、都立学校との接点としても貴重だった。

4、長期プログラム支援 2023年

- ・総合学科高校における社会人基礎力向上事業に参画
- ・これまでの実績等をもとに面談し、支援校を決定

(内容)

- ・3年間のキャリア教育のグランドデザインを検討する。
- ・オリエンテーション合宿の授業支援を行う。
- ・その後、1年次の産業と社会から授業支援も実施。

※従来の支援との違い

- ・問い合わせありきの学校とは異なる
最初のうちは、学校との期待値調整や温度感に戸惑うことも
- ・社会教育主事にサポートいただく

主なサービス

教材提供、カリキュラム支援 → 常駐支援

収益モデル

学校モデル、企業との協働モデル、自治体モデル

3、短期プログラム支援 2024年

- ・都立高校生の職業的社会的自立支援プログラムにも参画
- ・従来からあった「探究スキルUPワークショップ(2コマ~6コマ)」を展開。

- ・上記プログラムは、企業との教育CSRとの協働モデルで開発。
- ・多くの高校生たちに届けること自体が目標であった。
- ・2017年の時とは異なり、採算性が問題にはならなかった。

・逆に、東京都の都立学校に対して、広く案内してくれること、結果的に、1,800名以上の高校生たちに授業実施をすることができ、2024年度の事業フェーズでは大変貴重な機会だった。

※なお、経済産業省「働き方改革支援補助金2024」を活用し、全国的な支援に拡大をしていた。

主なサービス

常駐支援・全国各地支援

収益モデル

学校モデル、企業との協働モデル、自治体モデル

共創フェーズ(2025年～)

接点

事業

共創

- ・2025年3月の総合学科高校の成果発表会を機に、団体間の共創、学校連携が加速。定期的な情報交換が共創の基盤になった。
- ・事業基盤の安定に伴い、学校内外とのコレクティブインパクトを目指した共創が2025年から本格的に加速した。

5、ネットワーキング支援 2025年

(開催概要)

- ・東京都が主催で、総合学科高校の2年間の成果報告会を開催
- ・合計4校の取り組みや課題、次年度展望も議論された。
- ・出席は、3団体、導入校の管理職や教員、都教委が参加。

(報告概要)

- ・各学校での取り組み
- ・カリキュラム支援や生徒支援、プログラム造成など三者三様。

(効果)

- ・参加団体同士での協働の促進に繋がる
- ・学校側から、団体に依頼する仕事内容等の参考になった声も

主なサービス

常駐支援・全国各地支援

収益モデル

学校モデル、企業との協働モデル、自治体モデル

6、共創・新たな実践の支援創出 2024年

・本年度実施の3団体が揃っての会議によって、総合学科高校の実践充実に向けては、意見交換や連携強化が進む。

・総合学科高校の講師が代表を務める団体が、ネットワーク協議会に未加入だった。自立支援プログラムにも繋げるため、生涯学習課にご紹介。また学校図書館との連携推進などの学校内連携も推進。

※なお、経済産業省「探究・校務改革支援補助金2025」活用や、サービス体験会の場などを通じて事業者同士の協働も大きく進んだ。
※事業基盤の安定やこれまでの実績の積み上げを背景に、大学との産学官連携や次世代教育イノベーターの発掘・育成、企業等と連携した探究成果発表会の開催、学校教育のビジョンペーパー検討など、単年度にとどまらない中長期的な共創の取組を進めることができた。

主なサービス

常駐支援・全国各地支援 → アライアンス/共創

収益モデル

学校モデル、企業との協働モデル、自治体モデル

委員報告の構成

- 1、自己紹介および団体紹介
- 2、現状（団体側目線 東京都と一般社団法人Fordとの関わり 2016年～2026年）
- 3、成果（団体側目線）
- 4、課題（委員側目線）
- 5、期待（委員側目線）

3、成果（団体側の経営者目線）

- ・ネットワーク協議会と関わることで、団体側としては大きく3つの成果があった。
- ・特に「学校支援の深化」と「事業の安定と共創」は、単発・単年度・自主事業では得がたい事業開発の機会となり、成長に繋がった。

学校支援の深化

ネットワーク協議会との接点のうち、総合学科高校の参画が、最も大きな成果だった。学校支援の充実、常駐型モデルの実施、総合学科に対する深い理解、生涯学習課のノウハウ移転、学校内連携強化（学校図書館等の連携）、事業開発としても非常に貴重な事業だった。また報告会等での横の事例共有の機会によって、団体間のやり方を学習する機会にもなった。

事業の安定と共創

社会人基礎力事業は、複数年度に渡る安定した事業となったため、一つの団体だけで対応できない課題に対しても、団体間連携を行い、共創の実現にも繋がった事例ができた。特に初年度の不安定さを乗り越えてからは、団体同士でも連携を行いやすくなった。

受益者数の増加

高校生たちに対して、広く届けたいと思う段階で自立支援プログラムは貴重だった。特に、自分たちが接点のない学校に対しても、広く届けていけることは貴重な事業だった。※なお、団体の中には、都の事業に参画した実績づくりとして掲載する団体も。

委員報告の構成

- 1、自己紹介および団体紹介
- 2、現状（団体側目線 東京都と一般社団法人Fordとの関わり 2016年～2026年）
- 3、成果（団体側目線）
- 4、課題（委員側目線）
- 5、期待（委員側目線）

4、課題（委員側の制度設計目線）

- ・ネットワーク協議会の課題として整理すると、接点・事業・共創の3つの段階で、合計8個の主な課題が考えられるのではないか。
- ・これからの地域教育を考える上では、仕組みや仕掛けを生み出すことが重要ではないか。

接点フェーズ

2016年～2022年

1. 団体側に相談しにくさがあり、事業前の接点創出、接点確保が難しいのではないか（2017）
2. 教育CSR活動との相性は良いが、本格的な連携には団体が育つことが必要だった（2017～2022）
3. 属人的ではなく、仕組みとして接点を持ち続けることが必要ではないか（2023）

事業フェーズ

2023年～

4. 短期プログラムでも、団体へのフィードバック（組織学習の機会）の提供が重要ではないか（2017）
5. 団体が育つ過程を支援するならば、段階的に取り組める事業が重要ではないか（2017～2022）

共創フェーズ

2024年～

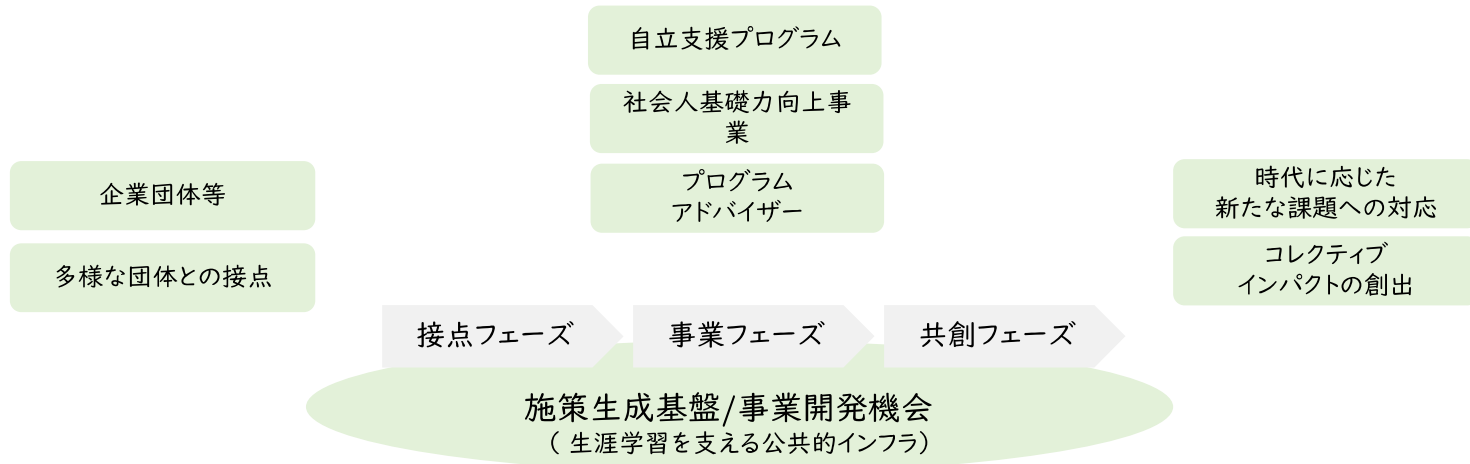
6. 共創意識や貢献意識だけでの連携が難しかった（2016）共創には事業基盤が必要では（2025）
7. 事業内の共創は実施できたが、領域横断的な共創を目指すならさなる仕掛けが必要では（2025）
8. 生涯学習施設との接点強化は目指したいものの機会がない（2025）

委員報告の構成

- 1、自己紹介および団体紹介
- 2、現状（団体側目線 東京都と一般社団法人Fordとの関わり 2016年～2026年）
- 3、成果（団体側目線）
- 4、課題（委員側目線）
- 5、期待（委員側目線）

5、期待

ネットワーク協議会には、行政目線と事業者目線、受益者目線の3つの目線が必要不可欠ではないか
「施策生成の基盤」であり「事業開発の機会」であり「生涯学習の土台」へと繋がる仕掛けや事業支援が重要ではないか。



行政から見れば、事業を行いながらも、時代の変化に応じた、新たな施策を生み出す基盤（施策生成の基盤）
団体から見れば、既存事業に加えて、新たな事業や課題を掴み、組織成長に挑戦していく機会（事業開発の機会）
受益者から見れば、多様な学びに触れながら、生涯学習に繋がっていく土台となる学び（生涯学習の土台）

5. 期待 | 中期プログラム事業の創出

接点

事業

共創

- ・短期プログラムか、長期プログラムかの2択は、団体側にとっても、学校側にとってもハードルが高いのではないかな。
- ・全8コマ～12コマ程度の、中期プログラムが枠組みとすれば、事業効果の拡大や団体育成にも資するのではないかな。

都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム事業



短期プログラムの導入数：
出典：東京都教育委員会
(2025)『令和7年度東京都教育委員会の権限に属する事務の
管理及び執行の状況の点検及
び評価(令和6年度分)報告書』、p.63

中期プログラムの位置付けと狙い

観点	短期	中期	長期
導入校 (2024)	151校	30校程度 (想定)	2校
団体数 (2024)	68団体	10団体 (想定)	2団体
コマ数	2コマ中心	8コマ～12コマ	年間35コマ
導入ハードル	低	中	高
導入効果	低	中	高
団体育成効果	低	中	高

※中期プログラムは、課題設定→情報収集→整理分析→まとめ発表の一連の流れを行う一つの単元として提供されることを想定。

※1学期や2学期、3学期などで、発表会などとセットで提供されることを想定。

数値で見る成果～3年間の学校生活を通じた入学時と3年次時点での社会人基礎力の向上の自己認識



長期プログラムの成果：

出典：東京都教育委員会(2025)『とうきょうの地域教育 No.155』、p.6

5、期待|相談体制の強化

接点

事業

共創

- ・団体のフェーズによって、幅広いニーズや相談事項が存在しているのではないか。
- ・相談体制を強化することで、接点強化や事業成果の向上、共創の推進につながるのではないか。

観点		接点フェーズ	事業フェーズ	共創フェーズ
ニーズ	顕在的ニーズ	東京都との 事業接点づくり	学校で 成果を出したい	共創をしたい
	潜在的ニーズ	新たな 事業開発の機会	プログラム相談 をしたい	実証校が欲しい
相談内容	事業/企画相談	関わりの相談 共創団体の提案	—	共創団体の提案
	学校との相談	—	導入校の相談	実証校の提案
	カリキュラム相談	—	カリキュラムの 提案等の相談	—
	プログラム相談	—	プログラムの ブラッシュアップ	—

・団体のフェーズによって、幅広いニーズが存在しているのではないか。

・そこで事務局側で、それぞれの団体のフェーズに合わせてきめ細かく対応できるようにすることで、全体的な成果を高めていくことができるのではないか。

5、期待 | 東京都教育共創フォーラム（仮称）の開催

接点

事業

共創

- ・共創を生み出すために、東京都が目指したい方向性、現状の到達点（成果）、課題、今後の共創可能性を共有。
- ・連携協働のために、都庁内の関連部門や団体側、生涯学習施設、区部市部の担当者、コーディネーターも交えて実施

東京都教育共創フォーラム（仮称）のイメージ

- ・東京都全体で取り組む子どもたち施策や教育施策が一堂に介して議論を行うフォーラム。
- ・生涯学習課の事業のみならず、起業家教育等も含めた子どもたちの教育全般を紹介し、新たな共創を目指す。
- ・連携協働のために、部署を超えて、成果強調よりも、課題の共有し、次年度以降の共創を目指す。
- ・団体等も登壇側となり、行政や企業、学校、団体の新たな共創や接点等の維持をゴールに開催する想定。

観点	地域学校協働活動推進フォーラム コミュニティ・スクール推進フォーラム	教育共創フォーラム
参加部署	生涯学習課 義務教育課	地域教育支援部 生涯学習施設 指導部、首長部局
分科会	テーマ別分科会	インクルーシブ教育 総合学科高校 探究支援プログラム 東京IBLの連携 起業家教育 子ども施策の推進
参加者	コーディネーター	学校教員/コーディネーター、 団体、行政
企業・ NPO	“プログラム紹介” オンライン見本市	登壇いただく想定
成果	地域協働等の推進	新たな共創の創出 接点等の確保

田中委員からの報告

これからの東京の地域教育の在り方について
—NPOから見た「インクルーシブな学び東京コンソーシアム」の
現状、成果、課題と期待—

これからの東京の地域教育の在り方について

— NPOから見た「インクルーシブな学び東京コンソーシアム」
の現状、成果、課題と期待—

NPO法人ピープルデザイン研究所

代表理事 田中 真宏

ピープルデザイン

心のバリアフリーをクリエイティブに実現する思考と方法論

5つのマイノリティ

障害者

高齢者

外国人

LGBTQ

子育て中の
父母



モノづくり

コトづくり

ヒトづくり

シゴトづくり

4つの領域

社会的マイノリティの方々の解決策をクリエイティブに提案
「渋谷」の街をメディアと捉え、ダイバーシティを新しいカルチャーとして発信

ちがいを
ちからに
変える街。



渋谷区
Shibuya City

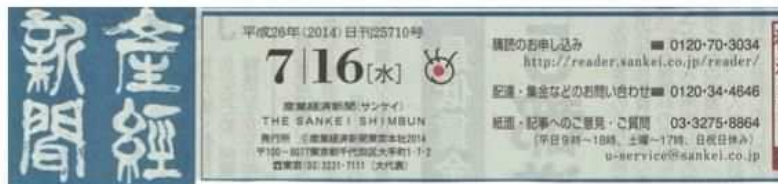


福祉の
テーマは超福祉

シブヤフォントなど新企画も生まれました！
福祉部も今までの福祉を超えるという意気込みで頑張ってます。超福祉展も年々拡大中です。

超福祉の推進

この4年間、福祉のテーマを超福祉とし、今までの福祉政策に加えて、テクノロジーや混じり合うことで生まれる新たな価値に重きを置き、政策を進めてきました。福祉作業所とデザイン専門学校との協働により、超福祉展から生まれた「シブヤフォント」やパラリンピック応援タオルの製作、渋谷のお土産プロジェクトなど新しいアイデアも政策に取り入れ推進していきます。また、障がい者団体より希望を頂いていた重症心身障がいのある方や医療的ケアの必要な方の通所施設を、はあとびあ原宿の隣地に整備する為の基本計画に着手します。さらに幡ヶ谷二丁目の高齢者共同住宅跡地に、知的障がい者グループホーム、短期入所、特定相談支援事業を開始します。



Colors, Future!

いろいろって、未来。

多様性は、あたたかさ。多様性は、可能性。

川崎は、1色ではありません。

あかるく。あざやかに。重なり合う。

明日は、何色の川崎と出会おう。

次の100年へ向けて。

あたらしい川崎を生み出していこう。



川崎市



2014年7月16日

産経新聞 「NPO法人ピープルデザイン研究所と川崎市包括協定を締結」

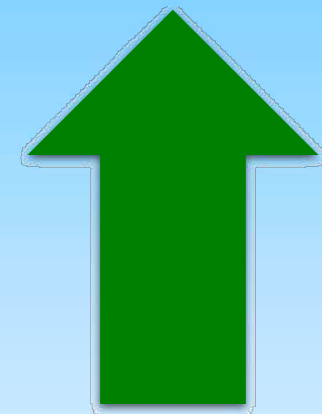
超福祉

一人ひとりの心の中に存在する、障害者をはじめとしたマイノリティや福祉に対する「負い目」にも似た「意識のバリア」。“超福祉”の視点では、従来の福祉のイメージ、「ゼロ以下のマイナスである『かわいそうな人たち』をゼロに引き上げようとする」のではなく、全員がゼロ以上の地点にいて、混ざり合っていることを当たり前と考えます。ハンディキャップがある人＝障害者が、健常者よりも「カッコイイ」「カワイイ」「ヤバイ」と憧れられるような未来を目指し、「意識のバリア」を「憧れ」へ転換させる心のバリアフリー、意識のイノベーションを“超福祉”と定義します。

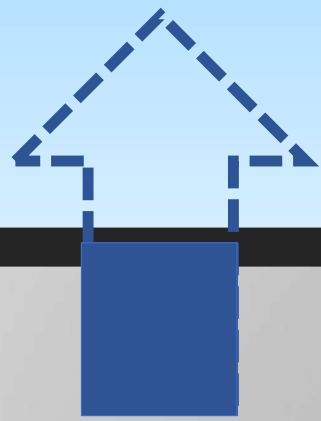
超福祉 / Super Welfare

+
プラス

ダイバーシティ
インクルージョン



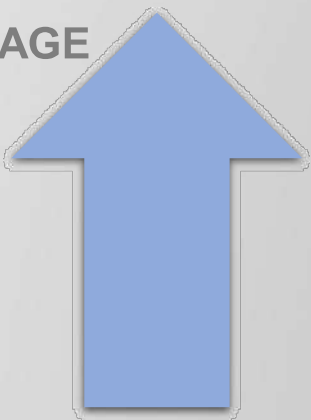
ON STAGE



ピープルデザイン

0
ゼロ

OFF STAGE



ユニバーサルデザイン

-
マイナス

バリアフリー
ノーマライゼーション



2020年、渋谷。
超福祉の日常展
を体験しよう展
SUPER WELFARE EXPO







「超福祉の学校2019」～障害の有無をこえて共に学び、つくる共生社会フォーラム～

障害の有無にかかわらず、ともに学び、生きる「共生社会」の実現を目指す文部科学省 主催、ピープルデザイン研究所共催で『「超福祉の学校」 障害のある人とともに学び、つくる共生社会フォーラム』を2日間にわたり開催。「共生社会」の実現に向けて、障害のある人が日頃の活動を発表・表現し、多様な人々が互いに思いを伝えあい学びあうイベント他、企業・大学なども参加し、障害のある人もない人もちがいを超えて交流する様々なイベントを開催しました。また、期間中は会場内のバーカウンターにて、障害者雇用を行っている「PARK CAFE」によるカフェも展開しました。

9/7 (sat)

【未来言語×超福祉】 100年先のコミュニケーションを 考える体験型ワークショップ

11:00-12:00 ○松田 崇弥 ○永野 利司



「話せない・聞こえない・見えない」状態となり、新しいコミュニケーションのアイデアを参加者の皆さんと探ります。

※参加者：34名

凸凹であることを尊重し、 凸凹を楽しむ



【第一部】— 学校で共に学ぶ仕掛け —

12:30-14:00 ○岡田 克己 ○山中ともえ ○田中 裕一

【第二部】— 暮らしの中で仲間と出会う —

14:30-16:00 ○藤貫 愛子 ○河高 素子 ○須藤 シンジ ○田中 裕一

障害のある子供の自立や社会参加に向けて、生涯にわたり学び続けるために、学校教育段階での多様性が生む共生の学び、個性に合わせた学びのスタイルを見つけていく実践などについて考えます。

※第一部参加者：70名

※第二部参加者：65名





飛び超えて学ぼう。
学んでつながろう。
Super Jump and Learn and Connect.



2025.10.28 (Tue) → 11.4 (Tue)
展示・体験会 11:00-20:00 (11.4Tue 18:00 close)
渋谷ヒカリエ 5F B/COURT (Shibuya Hikarie 5F "COURT")

2025.10.31 (Fri) → 11.3 (Mon)
シンポジウム 11:00-20:30 (11.3Mon 18:30 close)
渋谷ヒカリエ 5F B/COURT (Shibuya Hikarie 5F "COURT")

超福祉の学校@SHIBUYA

従来の福祉のイメージとは一線を画す、渋谷らしい福祉「超福祉/SUPER WELFARE」(注)を全国に発信する「超福祉」イベント。

その中のひとつである「超福祉の学校@SHIBUYA」は、障害の有無にかかわらず、共に学び生きる共生社会の実現を目指すイベントとして2021年にスタートし、今回で5回目を迎えます。

シンポジウムでは、従来の教育や特別支援教育や障害福祉の枠にとまらない、多種多様な方々が登壇し、国内のみならず海外ともオンラインで繋ぎ、世界各地の最先端の学校教育、社会教育、生涯学習やインクルーシブ教育に関する具体的な事例やアクションを、シンポジウムをメインに渋谷から発信していきます。シンポジウムはライブ配信を行いますので、リアルタイムで参加できない方や、渋谷まで来られない方々もご参加が可能です。さらに、これまでの全てのシンポジウムはアーカイブ配信を行っていますので、場所と時間を飛び超えて、いつでもどこからでも、そして誰でも「超福祉の学校」に参加して、学ぶことができます。

また昨年からは開催期間と会場を拡大し、インクルーシブな遊びと学びをテーマに、みて・きて・かいて・ふれて、誰もが体で感じて楽しめる展示・体験空間をスタート。

「超福祉の図書館」と名付けた空間には、遊具・図書・テクノロジー・アート・音楽などの多種多様なジャンルの最新コンテンツを集め、公園・図書館・美術館・博物館などを連ねさせた「新しい公共空間のあり方」を提示していきます。

(注) 超福祉
 障害者をはじめとするマイノリティのかけがえのない価値を持ってもらえるようになる社会。また人々にそのような価値観が広がること。

主催 NPO法人ビー・フルデザイン研究所
 共催 文部科学省、渋谷区、東京都教育委員会、株式会社 丹精社

開催概要を見る

超福祉の学校とは



開催概要 超福祉の学校とは ニュース シンポジウム 展示・体験 ライブラリー 全国の取組事例

シンポジウム

生涯学習・社会教育・インクルーシブ教育・障害バリアフリー等の多様な“学び”をテーマに、全国各地から多種多様なゲストが登場。従来の教育や特別支援教育の枠を超え、最新の教育や学びの実践事例を渋谷から全国に向けて発信します。

※シンポジウムはライブ配信、アーカイブ配信も行います。
 ※ご参加は無料、事前のお申込みは不要です。

過去のシンポジウムも年度ごとに見られます。

2025年

2025年10月31日

2025年11月1日

2025年11月2日

2025年11月3日

タグから絞り込む

- #大きく #ふれる #みる #STEAM教育 #大学 #就労 #デフリンピック #コミュニケーション #テクノロジー #小学校
- #身体障害 #知的障害 #視覚障害 #聴覚障害 #学校 #発達障害 #障害バリアフリー #公共空間 #図書館 #学び
- #アクセシビリティ #生涯学習 #子育て #教育 #子ども・障害児 #インクルーシブ #アート #インクルーシブ教育
- #文部科学省 #渋谷区 #東京都教育委員会

2025年 10月31日



2025年10月31日 (金) 12:00 - 12:30

オープニングセッション
 NPO法人ビー・フルデザイン研究所

渋谷区
 #テクノロジー #アクセシビリティ #子育て #高齢者

2025年10月31日 (金) 13:00 - 14:30

バリアフリーマップ～ユニバーサルな街で、誰もが安心して歩ける街へ～

渋谷区
 #テクノロジー #アクセシビリティ #子育て #高齢者

2025年10月31日 (金) 15:00 - 16:30

“ともに楽しむ”ために必要なことってなんだろう？～Ontennaやエキマトへの事例から考える～

富士通株式会社 コンバージングテクノロジー 一研究所 DESIプロジェクトグループ
 #大きく #コミュニケーション #テクノロジー #聴覚障害

2025年10月31日 (金) 17:00 - 18:30

「じりっ」と向き合う大人の語り場「スナックじりっ」

文部科学省
 #聴覚障害 #文部科学省



2025年10月31日 (金) 19:00 - 20:30

渋谷からデフリンピックを応援!! デファスリートークショー

渋谷区まなびとスポーツ課
 #デフリンピック #聴覚障害 #渋谷区

インクルーシブな学び東京コンソーシアム

企業やNPO等の交流、情報交換の場を提供

- ・ 障害のある人々の生涯にわたる学びを支援
- ・ 障害のある人もない人も共に学べる環境づくりに向けた取組を展開
- ・ 互いの個性を認め合い、多様性を尊重しながら支えあえる
インクルーシブシティの実現

企業、NPO等が有する専門性を生かした生涯学習講座等を実施しインクルーシブな学びを展開

(高校生等を対象とした体験プログラム、学校卒業後の障害者を対象)

- (1) 「インクルーシブな学び」プログラム事業
- (2) インクルーシブな都立学校公開講座
- (3) 学校卒業後の障害者の「学びの場」づくり

インクルーシブな学び東京コンソーシアム

(1) 「インクルーシブな学び」プログラム事業（都立学校向け）

令和6年度： 9校

令和7年度： 23校

■ 超福祉ワークショップ



■ 「私たちが目指すべき超福祉な社会とは」

■ コミュニケーションチャームをつくろう！



■ アクセシブルな図書体験会／りんごプロジェクト

■ 通常級と特支の交流プログラム



インクルーシブな学び東京コンソーシアム

(2) インクルーシブな都立学校公開講座（特別支援学校向け）

@ 王子特別支援学校

■ りんごプロジェクト × 演劇

アクセシブルな図書体験会と、「大きなかぶ」を実際に演じて表現



インクルーシブな学び東京コンソーシアム

(3) 学校卒業後の障害者の「学びの場」づくり (一般向け)

@都立大学 (障害当事者〇〇名、大学生〇〇名、若手俳優5名)

演劇をつくりあげる中で、
お互いを知り、学びあう時間



このプログラムでは、障害の有無にかかわらず、共に演劇を創り上げる体験を通して、仲間づくりの大切さを学ぶことができます。同世代の人たちと楽しく交流を深めてみませんか？

【日程】第1回：令和8年1月11日(日)
第2回：令和8年1月12日(月祝)
【時間】13:30～15:30 ※13:00開場
【場所】東京都立大学 南大沢キャンパス
(八王子市南大沢1-1)

【参加費】無料
【条件】① 18～25歳くらいまでの方
※ 高校・専門学校・特別支援学校を卒業された方
※ 現地までの移動。医師のケア、トイレ等で介助が必要
な方は、介助者の方と一緒に参加をお願いします。
② 第1回、2回の両方に参加できる方

【定員】30名 (先着順となります)
【申込】右のQRコードからお申込ください
※ フォームからお申込できない場合には、以下の
メールアドレスにメールをお送りください
contact@peopledesign.or.jp



東京都教育委員会
「学校卒業後の障害者の「学びの場」づくり」事業
この事業は、特別支援学校等を卒業した障害のある人と大学生等が、交流
を伴う学びに参加し、相互理解を深めることで、お互いに支え合いながら
社会生活を営んでいくことの意義を促進することを目的としています。

東京都教育委員会主催「令和7年度学校卒業後の障害者の「学びの場」づくり」
だいがくせいせたい
大学生世代が集まって
共に学びあえる新しいプログラム

第1回
令和8年
1/11(日)

第2回
令和8年
1/12(月祝)

各日のタイムスケジュール

テーマ「オリジナルのテレビCMをつくろう！」

1日目：令和8年1月11日(日)

- 13:00 開場
※ 予め決められたグループごとに着席
- 13:30 挨拶、プログラムの説明
- 13:40 自己紹介、アイスブレイク
- 14:00 ワーク①
グループメンバーの得意分野の確認をする
担当や役割を決める
- 14:20 休憩
- 14:30 ワーク②
メンバーの特性を活かしたCMのテーマを決める
CMの内容や配役を決める
- 15:20 振り返り
宿題「CMに必要なアイテムを持参しよう」
:30 プログラム終了、解散

2日目：令和8年1月12日(月祝)

- 13:00 開場
※ 1日目と同じグループで着席
- 13:30 挨拶、1日目の振り返り
- 13:40 ワーク③
練習、リハーサル
- 14:00 発表
グループごとにつくったCMを発表
※ 1グループ4名程度の10グループ予定
※ 途中10分休憩が入ります
- 15:00 総評
:10 アンケート記入
:30 プログラム終了、解散

※ プログラムの内容や進行の時間は、両日の状況次第で若干変更になる可能性があります。



インクルーシブな学びの場づくりで大事なこと

環境設定

テーブルルールやアイスブレイクを通じてマナーやルールを徹底。心理的安全性の担保

協調性

健常者側：支援の意識を壊す
障害者側：協調性を養うことが大事

デザイン

思わず参加してみたい！と思えるワクワク感

共創

参加者側のみならず企画側も。多様なメンバーで「できること」の役割を切り出し共に創りあげる

柔軟性

プログラムの軸は固定しながら、個別性を前提に即時に対応できる柔軟なプログラム設計

成果

(1) 「インクルーシブな学び」プログラム事業

- ・参加団体数の増加
- ・プログラムの選択肢の増加と多様さ
- ・若い世代へのアプローチ
- ・参画団体の専門性とネットワークの広さ
- ・特別支援学校への展開
 - － 特支では生徒のみならず先生の学びに
 - － 意思決定支援（能動的に探す、選ぶの選択肢）
 - － 学びが届かない場所への展開（八丈島）

(2) インクルーシブな都立学校公開講座

- ・先生方の負担軽減
- ・余暇活動的な機会の増加

(3) 学校卒業後の障害者の「学びの場」づくり

- ・今後に向けた第一歩を踏み出せた
 - － 次回以降に向けての課題が明確に

課題

(1) 「インクルーシブな学び」プログラム事業

- ・ 参画社数増加に伴うコンソーシアムのブランド力担保とリスクヘッジ
- ・ 学校側の熱量やニーズとの差が大きい場合がある
- ・ マストな学びの共通認識

(2) インクルーシブな都立学校公開講座

- ・ 卒業生のネットワーク、コミュニティの継続
- ・ 周知できるサイトやチャットなどの開設

(3) 学校卒業後の障害者の「学びの場」づくり

- ・ プログラムの享受者の当事者まわりへのアウトリーチ
- ・ 参加者（障害、健常）双方への事前レク

共通

- ・ 学校とNPOをつなぐ中間支援組織の存在
- ・ フォードバックの集め方（行政と団体の役割分担）
- ・ 広報
- ・ プログラムの実績の蓄積とモデル化

- ① 資金
- ② 広報
- ③ 信頼
- ④ NPO側の学び
- ⑤ 東京ブランド
- ⑥ 管理と運営の役割分担
- ⑦ ネットワーク

- 多様な主体者と多様な参加者の巻き込み
- ムーブメント化
- 日常化

- 持続可能な仕組みづくり（マネタイズ含む）
- 管理(マネジメント) と 運営（オペレーション）
- 中間支援とコーディネーターの配置
- 一般企業の巻き込み